

第 34 回 芝樋ノ爪及び芝 4・5 丁目地区まちづくり協議会 議事要旨

(1) 日時

令和元年 10 月 16 日 (水) 午前 10 時～11 時 30 分

(2) 場所

芝神戸町会会館

(3) 出欠者 (会員数 19 名)

- ・ 会員 : 9 名 (欠席者 10 名)
- ・ 事務局 : 川口市 4 名、(株)首都圏総合計画研究所 2 名

(4) 議事次第

- 1) 開会
- 2) 防災まちづくりのソフト事業 (自主防災) のあり方について
- 3) まちづくり協議会ニュース (第 28 号) の編集担当募集について
- 4) その他
- 5) 閉会

【配布資料】

- ・ 次第
- ・ 資料 1 : 会則、会員名簿
- ・ 資料 2 : 防災まちづくりのソフト事業 (自主防災) のあり方について
- ・ 資料 3 : まちづくり協議会ニュースの編集担当募集のお知らせ (案)
- ・ 参考資料 : 芝 5 丁目地内での火災状況



▲意見交換の様子



▲意見交換の様子

(5) 議事概要 (○ : 質問・意見、→ : 回答)

1) 開会

副会長より開会の挨拶。協議会員について加入及び退会を報告。
事務局より芝5丁目地内での火災状況について説明。

【芝5丁目地内での火災状況について意見交換】

- : 火災現場は芝中田町会と芝神戸町会の境目である。今回の火災は周囲に水路や駐車場があったため延焼が抑えられたと考えている。
- : 火元の住宅は、当日は留守であった。消防に確認したところ、2階から出火したようだが、原因は不明とのことである。解体工事は先日行われる予定であったが、台風19号の影響により延期となった。火災被害を受けた世帯のうち、町会に加入している世帯は4世帯程度である。中には中国人の方もおり、地域との関係が希薄な世帯もみられる。このような場合に備えて、町会や民生委員の連携が必要である。
- : 狭い道路だと消防活動に支障が出るということを実感した。
- : 消防活動において周囲の道路整備状況に関連する意見はあったか。
- : 消防署からそのような意見は聞いていない。幅員の広い道路に消防活動用の防火水槽等を設置しているので、消防活動において支障は特になかったのではないか。
- : 市がマンホールや消火栓の検査をしているところを見かけることがある。
- : 防火水槽については、毎年市が点検を行っている。
- : 密集地域では、火災はドミノ現象のように広がる。昔から芝地区では、同じような火災が何件か起きている。まちづくりのテーマとして密集地域の解消が大事であると感じる。今回の火災は駐車場が近くにあったことや、消防車両が現場近くまで侵入できたことは不幸中の幸いであったと感じている。

2) 防災まちづくりのソフト事業（自主防災）のあり方について

事務局より防災まちづくりのソフト事業（自主防災）のあり方について説明。

【防災まちづくりのソフト事業（自主防災）のあり方について意見交換】

- : 防災マップは、水害と震災を分けて作成した方が良いのではないか。
- : 水害については、市のハザードマップにより、荒川や芝川が決壊した場合の最大浸水深等を確認することができる。
- : 街中の電柱等に荒川が決壊した場合の最大浸水深が記されていることがあるが、自分で探してみても中々見つけることができない。そのような情報も防災マップを作成するうえで必要ではないか。
- : 台風19号では、避難所がどこか聞かれることが多かったが、水害時と震災時では、避難所が違う。
- : 今回の台風では、芝中学校では300人、芝小学校では80人避難した。芝小学校の避難所では、町会別に場所が分けられていた。
- : 水害の場合は、隣町まで浸水被害が広がる可能性もあるので、3つの町会が一体となって対策を考えることは重要だと考えている。防災マップを作ることは賛成である。3つの町会を合わせて最高のものを作っていきたい。
- : 地震の備えはしていたが、台風はあまり想定してこなかった。今回の台風では、10月12日午

前中に校長、市の職員、自主防災組織が避難所設営に向けて動き始めていた。避難所には、高齢者、一人暮らし、家族連れ、車椅子生活をされている方、妊婦の方等、様々な方が避難していたので、部屋割りを工夫した。衛生面について、看護師の方等からアドバイスをいただきながら配慮した。樋ノ爪小学校では、114名が避難されたが、避難所の運営において勉強になる点が多かった。

- ：情報共有が安心感に繋がると思うので、町会ごとではなく、3町会が集まって情報共有ができる場があると良い。
- ：土嚢が足りていないという声が多かった。北消防署で土嚢を配布していたが、周知が足りていなかった。
- ：北消防署では、土嚢の配布は一人につき10個までであったが、後から伺った時点では既になかった。消防署だけでは、備えが足りなかったようである。
- ：当日は町会長同士で連絡は取り合っていたのか。
- ：取っていない。当日は3箇所くらいの避難所の様子を見て回っていた。
- ：町会役員や民生委員には避難所の開設情報などを周知していた。
- ：町会未加入者は避難所で受け入れてもらえるのか。町会未加入者が避難しにくい環境にならないようにしたい。
- ：関係なく受け入れている。
- ：避難者カードに、住所や氏名などの記入欄は設けていたが、町会に加入しているかどうかは関係なかった。外国人の方も多かった。
- ：以前、芝神戸町会で炊き出し訓練を行ったときは、クルド人の方が来ていた。
- ：芝小学校では、ペットも受け入れていた。
- ：防災マップに併せて、備品の支給場所や電話番号などの情報が分かるようになると良い。
- ：毛布も足りなかったため、芝西中学校から借りた。
- ：防災マップに各避難所で備蓄しているものや数量なども分かるようになると良い。住民の数に対して、避難所の収容人数は足りていないが、町会としてこれに対する解決策は検討できていない。市としてはどのように考えているか。
- ：地震であれば、大きい公園なども活用しながら対応していくことが考えられる。
- ：トイレや備蓄品が充実している施設については、避難場所に指定されていなくとも、公開して良いのであれば防災マップに掲載していくことが考えられる。ただし、震災時と水害時では、状況が違うので、防災マップで分けるかどうかは事務局に検討していただきたい。
- ：防災課の意見も聞きながら検討していきたい。
- ：今回の台風を経験して、まちづくり協議会としてどのようなことをまとめていくかを早い段階で話し合うことは大事である。防災マップの作成と並行して、今回の台風の実験を取りまとめる作業も必要であると思う。これまで協議会では道路や公園などハードの整備に取り組んできたが、今後に向けて取り組むべき課題を整理することで次に繋げることが重要ではないか。
- ：可能であれば消防車が通行できない道路も防災マップに入れた方が良い。
- ：消防では、狭隘道路の多い地区において、どこから消防車両を通行させるかの計画を持っているようであるが、一般には公開されていない。
- ：ハザードマップはよく見ると避難所の情報が記載されており、各戸に配布されているはずだが、当事者意識がないため目を通していない人が多い。防災マップを作成することが目的ではなく、防災マップを作成するために行うまち歩きや議論が大事であると考えている。協議会会員のみならず、近隣の住民も交えてワークショップ等を開催し、防災マップを作成する過程の中で、情報

を共有していくことが重要であると思う。どこに行けば情報を得られるか知らない人も多い。様々な立場の人が集まる機会を設け、話し合う中でまちの問題を把握し共有することを目的として、防災マップを作成していけると良い。

○：今回の台風によって、住民も災害に対する意識が高まっていると思う。

◎防災マップの作成については以下のとおりとする。

- ・次回協議会にて、防災マップづくりを行う。
- ・各町会は、防災マップに掲載する内容について検討し、次回協議会に案を持ち寄る。
- ・事務局は、区の防災課や町会の防災部など外部からメンバーを次回協議会に招集することも検討する。

3) まちづくり協議会ニュース（第28号）の編集担当募集について

事務局よりまちづくり協議会ニュース（第28号）の編集担当募集について説明。

【まちづくり協議会ニュース（第28号）の編集担当募集について意見交換】

○：今号は台風19号における各避難所の様子を記事に掲載する方が良いのではないかと。避難所を開設する際の問題点など、記事として発信すべき内容はいくつかあるのではないかと。今号は台風19号の特集号として発行すると良いのではないかと。

→：台風に関する記事については、防災課に各避難所の様子等を収集しながら調整していきたい。最終ページは各町会から一人ずつ記事を持ち回りで担当していく方向が良いかと。

○：編集担当を決めることは、各町会の負担が大きく事務局からの押付けと捉えられる。

→：そのような意見が多ければ決めないことも考えられる。

○：次号は台風に関する記事を作成していただき、それに対して我々が発行の事前に意見を述べるようにすると良いのではないかと。

○：協議会でのテーマが変わってきたと感じたので、今後はメンバーの入れ替えも視野に入れて、防災やまちづくりに本当に興味のある人に参加していただきたい。

○：本日の協議会は非常に有意義であったと思う。協議会のテーマ次第では、町会の役員以外にも協議会に参加したいと考えている方はいるのではないかと。みんなが参加することが大事だと思うので、参加への動機づけも併せて今後も取り組んでいきたい。

○：次の号は全てのページが災害特集でも良いと思う。災害に対する意識が高まっているので、今までニュースを読まなかった方も読むきっかけになるのではないかと。

◎まちづくり協議会ニュース（第28号）の作成については以下のとおりとする。

- ・今号は災害特集号として位置付け、主に台風19号における各町会や避難所の状況を記事として掲載する。
- ・事務局は必要に応じて各町会や防災課にヒアリングを行いながら記事の構成を検討する。

4) その他

※特になし

5) 閉会

以上